

名誉教授 亀井孝先生著作目録(抄)

昭和一〇年(一九三五年)

一月 敬語「こしめす」について(国語と国文学二二〇)

(一一)

昭和一一年(一九三六年)

七月 理由を表はす接続詞「サカイニ」(方言六〇七)

九月 佐久間鼎博士著「現代日本語の表現と語法」(書評)(国語と国文学一三〇九)

一〇月 文法体系とその歴史性(国語と国文学一三〇一〇)

昭和一二年(一九三七年)

七月 湯沢幸吉郎氏著「徳川時代言語の研究」(書評)(国語と国文学一四〇七)

(国語と国文学一四〇七)

八月 室町時代末期におけるタ行音の口蓋化について(方言七〇七)

昭和一三年(一九三八年)

二月 日本語学のために(文学六〇二)

二月 現代国語学思潮の素描(国語と国文学一五〇二)

七月 金田一京助博士著「国語史系統論」(書評)(国語と国文学一五〇七)

昭和一四年(一九三九年)

一月 小林好日著「日本文法史」(書評)(言語研究二)

三月 吉田澄夫氏著「天草版金句集の研究」(書評)(国語と国文学一六〇三)

語と国文学一六〇三)

四月 国語と民族性との問題(国語と国文学一六〇四)

一〇月 本居春庭の古道論(国語と国文学一六〇一〇)

昭和一五年(一九四〇年)

七月 重松信弘氏著「国語学史概説」(書評)(国語と国文学一七〇七)

文学一七〇七)

一一月 国語研究資料の影印三種(言語研究六)

昭和一六年(一九四一年)

琉球方言の史的地位(方言研究二)

昭和一八年(一九四三年)

四月 上代和音の舌内撥音尾と唇内発音尾(国語と国文学二〇〇四)

学二〇〇四)

昭和一九年(一九四四年)

五月 狂言のことは(能学全書五 創元社)

六月 元和本 下学集(岩波文庫 岩波書店刊)

(121) 名譽教授亀井孝先生著作目録抄

- 一〇月 共時態の時間的構造(橋本博士還歴記念会編 国語学論集 岩波書店)
- 昭和二十一年(一九四六年)  
七・八月 いはゆる「言語学的古生物学」の成立(一橋論叢 一六ノ一・二)
- 四月 東大寺諷誦文稿の「コ」の仮字について(文学一四ノ四)
- 昭和二十二年(一九四七年)  
一月 国語問題と国語学(国語と国文学二四ノ一)  
七月 ソクソクソクソク—Excursus:「美那會曾久」について——(国語と国文学二四ノ七)
- 昭和二十三年(一九四八年)  
一月 日本語の現状と術語(思想の科学三ノ九)
- 昭和二十四年(一九四九年)  
六月 日本語系統論の問題(上)(一橋論叢二一ノ五六)  
一〇月 小木板節用集の系統と価値(国語と国文学二六ノ一〇)
- 一月 「つなぐ」考——意味論的考察のこころみ——(国語文一八ノ一六)
- 昭和二十五年(一九五〇年)  
三月 柿本人麻呂訓詁異見——語の意味の歴史の再建の限界に対する反省として——(国語と国文学二七ノ三)
- 四月 古典的文学作品に対する言語感覚の問題(国語と国文学二七ノ四)
- 八月 日本語系統論の問題(下)(一橋論叢二二ノ二)  
八月 故橋本博士の学問像と国語音韻の研究(橋本進吉博士著作集四 解説 岩波書店)
- 九月 方言文学としての東歌、その言語的背景(文学一八ノ六)
- 一〇月 蜷縮涼鼓集を中心にみた四つがな(国語学四)
- 昭和二十六年(一九五一年)  
八月 上代日本語の音節「シ」「チ」の母音(言語研究一一)
- 昭和二十七年(一九五二年)  
七月 憶良の貧窮問答のうたの訓ふたつ(万葉四)
- 昭和二十八年(一九五三年)  
四月 Are Japanese *Turu* and *Ito* Related to Korean *Turumi* and *Sil* Respectively? The Annals of the Hitotsubashi Academy, Vol. III No. 2.
- 五月 古今和歌集の註釈のために(金田一博士古稀記念言語・民俗論叢 三省堂)
- 昭和二十九年(一九五四年)  
二月 Chinese Borrowings in Preliterary Japanese (吉川弘文館刊)
- 三月 「ツル」と「イト」——日本語の系統の問題を考ふる上の参考として——(国語学一六)
- 三月 大野晋『上代仮名遣の研究——日本書紀の仮名を

- 中心として——』(書評)(言語研究二五)  
 六月 日本人と言語生活(日本放送協会編 ことばの研究室II 講談社)  
 八月 国語の変遷と歴史(要旨)(国語学一七)  
 九月 日本語とその研究との背景(一橋論叢三二ノ三)  
 一〇月 On the Authenticity of On-readings in Sino-Japanese, The Annals of the Hitotsubashi Academy, Vol. V No. 1
- 昭和三〇年(一九五五年)  
 三月 概説文語文法(吉川弘文館刊)  
 七月 室町時代末期の $\phi$ に関するおぼえがき(国語研究三)  
 九月 近代日本語の諸相の成立(国語学二二)  
 埋もれた言語と埋もれた訓詁(万葉一七)
- 昭和三十一年(一九五六年)  
 二月 新編文語文法(大和文庫刊)  
 三月 「音韻」の概念は日本語に有用なりや(国文学攷一五)  
 五月 文章というもの(学燈五)  
 九月 ガ行のかな(国語と国文学三三ノ九)
- 昭和三十三年(一九五七年)  
 一月 言語史上の室町時代(図説日本文化史大系七 小学館)  
 一二月 『日本古典文学大系 万葉集一』(文学二五ノ一)
- 一二月 古事記はよめるか(古事記大成三 平凡社)  
 On Some Extra-phonologic Parallels to Neutralisation Proper, Travaux de l'Institut de Linguistique, Vol. II.
- 昭和三十三年(一九五八年)  
 一月 「捷解新語」小考(一橋論叢三九ノ一)  
 一月 言語文化——かなの成立とその性格(図説日本文化史大系四 平安上)(小学館)  
 三月 「最善の音韻論的解釈は一つしかない」という作業仮説に対して(国語学三二)  
 七月 鐘楼蝙蝠録(一橋論叢四〇ノ一)  
 九月 孤例の処理(日本歴史二二三)  
 一月 古代日本語の間投詞(国語研究八)  
 一二月 中世における文体の崩壊の問題(文学二六ノ二)
- 昭和三十四年(一九五九年)  
 一月 孤例のあるばあひ(日本歴史一二七)  
 三月 懺悔考・女郎考(国語学三六)  
 五月 服部四郎『日本語の系統』を評す——特に言語年代学に関することを中心に——(文学二七ノ五)  
 六月 意味の変化と表現価値・「女郎」の語のニュアンス(国語学三七)
- 昭和三十五年(一九六〇年)  
 二月 春鶯囀(国語学三九)  
 一二月 女郎考追記、虹二題(国語学三九)

- 昭和三六年(一九六一年)
- 一月 わたくしの琉球語への関心と疑問(方言学講座四月報)
- 二月 調(日本歴史一五二)
- 三月 日本語系統論の諸問題(新潟大学・国文学会誌五)
- 三月 『日葡辞書』(国語学四四)
- 三月 『キリシタン教義の研究』解説(橋本進吉博士著作集一一 岩波書店)
- 九月 意味のはなし(言語研究四〇)  
日本語と東アジア諸言語との関係(英文)
- 昭和三七年(一九六二年)
- 六月 「オの段(長音)の開合」の混乱をめぐる一報告(国語国文三二ノ六)
- 一〇月 築島裕著『国語学要説』(言語研究四二)
- 十一月 ティダの語源(山田孝雄追憶 史学語学論集 宝文館)
- 昭和三八年(一九六三年)
- 五月 「オの段の長音の開合」の混乱をめぐる一報告補訂(国語国文三二ノ五)
- 五月 〃月のごと いくつかの古板のまりあの像の、その贊について——(日本歴史一八〇)
- 九月 日本語の歴史1 民族のことばの誕生(共著)(平凡社刊)
- 十一月 『日本語の歴史』の編集者のことば——金田一先生の書評にお答えする——(学能五ノ一一)
- 十二月 日本語の歴史2 文字とのめぐりあい(共著)(平凡社刊)
- 昭和三九年(一九六四年)
- 四月 日本語の歴史3 言語芸術の花ひらく(共著)(平凡社刊)
- 七月 日本語の歴史4 移りゆく古代語(共著)(平凡社刊)
- 十一月 日本語の歴史5 近代語の流れ(共著)(平凡社刊)
- 昭和三六年(一九六一年)
- 一月 万葉集第一五番の歌「渡津海乃……清明己曾」のよみについての私見(万葉三四)
- 二月 お馬ひんひん(国語国文研究一五)
- 三月 在唐記の「本郷波字音」に関する解釈(国語学四〇)
- 五月 「あめつち」の誕生のはなし(国語と国文学三七ノ五)
- 八月 なんだのゆくえ(国語学四一)
- 八月 五本改変節用集一(編者亀井孝 印刷者高羽五郎)  
二一三六年六月、三一三七年九月、四一三八年五月、五一三九年四月、六一三九年八月、七一四〇年十二月、八一四一年一〇月、九一四三年四月、一〇一四五年一〇月刊)

昭和四〇年(一九六五年)

一月 史記桃源抄の研究 本文篇一(共著)(日本学術振興会刊)

五月 ヨーロッパにおける言語研究——第八〇回例会報告概要——(都立大学方言学会会報五)

五月 日本語の歴史6 新しい国語への歩み(共著)(平凡社刊)

八月 日本語の歴史7 世界のなかの日本語(共著)(平凡社刊)

一月 村山七郎著『標流民の言語』——ロシヤへの漂流民の方言学的貢献——(言語研究四八)

二月 長夜十眠——歳旦にちなみて——(日本歴史二二二)

六月 楊貴氏につき語学のたちばから(日本歴史二二七)

六月 日本語の歴史別巻 言語史研究入門(共著)(平凡社刊)

昭和四二年(一九六七年)

六月 史記桃源抄の研究 本文篇二(共著)(日本学術振興会刊)

六月 コリアドの辞書に方言ありや(国語学六九)

八月 「さざれ」「いさご」「おひ(い)し」——右に關することばのうちから——(香椎瀆三七ノ一二)

昭和四四年(一九六九年)

一月 郡名および郷名「綴喜」についてこの漢字の仮借のこと(日本歴史二三三)

三月 口語の慣用の徴証につきその発掘と評価(国語学七六)

四月 Betrachtungen eines Philologen über die Tennoherrschaft——Zum 100-jährigen Jubiläum der Meiji——, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol. 5 No. 1.

昭和四五年(一九七〇年)

一月 『正章千句』研究1(共同)(文学三八ノ二)

三月 史記桃源抄の研究 本文篇三(共著)(日本学術振興会刊)

三月 かなはなぜ濁音専用の字体をもたなかったか——をめぐってかたる(一橋大学研究年報一二)

三月 圏外の精神フーゴ・シュハート(言語研究五七)

三月 すぐめしうしう(成蹊国文三)

六月 「日本のカテキズモ」をよむ(ヒブリア四五)

九月 『十七行本古活字版中華若木詩抄』解題(東洋文学刊)

一〇月 「くぐ」とはいかなることばなりや(国語と国文学四三ノ一〇)

一一月 中華若木詩抄の寛永版について——とくに言語資料としてのその個性の一面——(方言研究年報一)

- 三)  
一月 ソスニールへのいざない(中央公論)  
How Did the Sparrow Twitter in Ancient Japanese? Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, No. 28.
- 昭和四六年(一九七一年)  
二月 言語の歴史(服部四郎編 言語の系統と歴史 岩波書店)  
三月 史記桃源抄の研究 本文篇四(共著)(日本學術振興会刊)  
三月 漆桶万里が作の抄ものうちから(国語学八四)かゞごめかゞごめ(成蹊国文四)  
六月 亀井孝論文集1 日本語学のために(吉川弘文館刊)
- 昭和四八年(一九七三年)  
三月 史学桃源抄の研究 本文篇五(共著)(日本學術振興会刊)  
五月 日ボ辞書にせよ版/印行始末記(『日葡辞書』勉誠社刊)
- 五月 ベダントリーのために(一橋論叢六九ノ五)  
一〇月 亀井孝論文集2 日本語系統論のみち(吉川弘文館刊)
- 昭和四九年(一九七四年)  
一月 日本語系統論につき、そのたどりきたりしあとをかえりみ、また、そのゆくすえをおもひ、すこしく私見をのぶ(月刊言語三ノ一)  
八月 天皇制の言語学的考察——ベルリン自由大学における講義ノートより(寺杣正夫訳)(中央公論)  
一一月 五本対照改編節用集(勉誠社刊)
- 昭和五〇年(一九七五年)  
四月 万葉集五二五番の第二句「小石」の訓をめぐって——ないことをたてにとつてのあげつらい(文学四三ノ四)
- 昭和五一年(一九七六年)  
四・五月 わかもの文法学徒たち(月刊言語 五ノ四・五) 語学資料としての中華若木詩抄(清文堂刊)(未刊)  
(酒井憲二編)